

# 平成28年度郷土を愛する心を育む教育についての取組



## 佐賀県立佐賀農業高等学校

【学校所在地】白石町大字福田1660番地

【連絡先】 TEL 0952-84-2611

FAX 0952-71-5009

【生徒数】 357名

### 佐賀農業高等学校の特徴や誇れるもの

- 佐賀県農業を担う人材育成に向け、明治28年に佐賀市に開校、大正10年の現在地への全面移転を経て120年の歴史を刻む。
- 玄関前が見事な蘇鉄は大正4年(1915年)に佐賀市の高伝寺から寄付されたものであり、100年に渡って本校の変遷を見守っている。県庁舎本館前の蘇鉄も、高伝寺にあった一対のうちの一つである。
- 本校出身の香月熊雄氏は、佐賀県知事として3期12年の間、佐賀県発展のために尽力した。
- 地域と連携した食・農・環境に関する専門教育を行っており、韓国全南生命科学高校との相互交流をはじめ、平成28年度にはSGH(スーパーグローバルハイスクール)の指定を受けるなど、グローバル教育にも力を入れている。



### 地域の「自然、歴史を感じる・守る」取組

- 毎年4月、開校記念行事として、日本三大歌垣の一つに数えられる歌垣山へゴミ拾いを兼ねてハイキングを行い、春の自然が織りなす美しい風景を感じ、それを守る機会としている。また、12月には全校で地域の清掃活動や児童・高齢者の方とのふれあいを目的とした全校ボランティアを行い、環境保全や地域貢献の活動、地域の方々との交流により、自然・文化・歴史を感じる取組としている。
- 学校周辺のクリークに、絶滅危惧種のカワバタモロコ存在を確認し、保護して人工的に飼育した後、繁殖させてクリークに返す自然保護活動を行っている。

### 校内最大のイベント【佐農祭】

- 毎年11月中旬に開催する秋の収穫祭。1000名を越える地域の方々、農産物や加工品を買い求めに来校される。人気はシクラメンなどの花、肉の加工品(ハム・ベーコン)、メロンであり、質の良いものを多くの方に提供できるよう、熱い思いを込めて実習に取り組んでいる。また、収穫感謝式の中で、福富出身の生徒による浮立の奉納や、地域のタマネギ農家に向けて苗を販売したりと、地域農業振興の一端を担っている。



### 農業学習の教材・技能を活かした地域との関わりについて

- 農業科学科では、校内で生産している農産物に、生産過程での研究・工夫を加え、量・質ともにより良いものを生産し、独自のブランド化を進め販売まで行っている。また、校内で飼育している動物とのふれあいを生かし、地域の小学校などとの交流や、アニマルセラピーを目的とした高齢者養護施設などの訪問も行っている。
- 環境工学科では、地域に広がるクリークの機能や水質の調査研究に加え、白石平野に堆積する有明粘土の特性と、それがもたらす地盤沈下等のメカニズムについても調査研究に取り組んでいる。また、環境保全の取組として、有明海沿岸に自生するシチメンソウやクリークに生息する絶滅危惧種保護の活動も手掛けている。
- 食品科学科では、県の名産農産物を材料にした加工品を生産している。代表的なものとして、白石産レンコンのアイスやキッシュ、県産大豆の味噌、ハム・ベーコンなどである。また、有名洋菓子店からパティシエを招き、プロの菓子づくりを基礎から学んでいる。そして、その技能を活かし、平成25年度より、高校生ケーキカフェ「サノ・ポヌール」を江北町小田宿に展開している。生徒主体で全て手作りの経営を行っており、町とタイアップし、地域を元気にしたいとの思いが、少しずつ広がっている。



# 平成27年度郷土を愛する心を育む教育についての取組



## 佐賀県立佐賀農業高等学校

【学校所在地】白石町大字福田1660番地

【連絡先】 TEL 0952-84-2611

FAX 0952-71-5009

【生徒数】 357名

### 佐賀農業高等学校の特徴や誇れるもの

- 佐賀県農業を担う人材育成に向け、明治28年に佐賀市に開校、大正10年の現在地への全面移転を経て120年の歴史を刻む。
- 玄関前の見事な蘇鉄は大正4年(1915年)に佐賀市の高伝寺から寄付されたものであり、100年に渡って本校の変遷を見守っている。県庁玄関前の蘇鉄も、高伝寺にあった一対のうちの一つである。
- 本校出身の香月熊雄氏は、佐賀県知事として3期12年の間、佐賀県発展のために尽力した。
- 白石平野の広い校地を利用し、地域と連携した食・農・環境に関する専門教育を行っており、韓国全南生命科学高校との姉妹校提携をはじめグローバル教育にも力を入れている。



### 地域の「自然、歴史を感じる・守る」取り組み

- 毎年4月の開校記念日に、日本三大歌垣の一つに数えられる歌垣山へゴミ拾いを兼ねてハイキングを行い、春の自然が織りなす美しい風景を感じ、それを守る機会としている。また、12月には全校で地域の清掃活動や児童・高齢者の方とのふれあいを目的とした全校ボランティアを行い、環境保全や地域貢献の活動、地域の方々との交流によって、自然・文化・歴史を感じる取り組みとしている。
- 学校周辺のクリークに、絶滅危惧種のカワバタモロコシの存在を確認し、保護し人工的に飼育した後、繁殖させてクリークに返す自然保護活動を行っている。

### 校内最大のイベント【佐農祭】

- 毎年11月中旬に開催する秋の収穫祭。1000名を超える来場者があり、農産物や食品の加工品を買い求めに来られる。人気はシクラメンなどの花、肉の加工品(ハム・ベーコン)、ぶどう・メロンであり、質の良いものを多くの方に提供できるよう、熱い思いを込めて実習に取り組んでいる。また、卒業生は生産物を販売したり、地域のタマネギ農家に向けて苗を販売したりと、地域農業振興の一端を担っている。



### 学校の特性を生かした活動や地域との関わりについて

- 農業科学科では、県内で生産されている農産物に、生産過程での研究・工夫を加え、量・質ともにより良いものを生産し、独自のブランド化を進め販売まで行っている。また、校内で飼育している動物とのふれあいを生かし、地域の小学校などとの交流や、アニマルセラピーを目的とした高齢者養護施設などの訪問も行っている。



- 環境工学科では佐賀の都市環境や生産環境の整備、都市緑化や公園整備、庭園造りなどの住空間の整備を研究している。また地域の自然環境保全の取り組みとして、シチメンソウや絶滅危惧種のカワバタモロコシを守る活動をしている。



- 食品科学科では県産の農産物を加工した食品を生産している。代表的なものとして、白石産レンコンのアイス、嬉野茶の抹茶シフォンケーキ、県産大豆の味噌、ハム・ベーコンなどがある。また平成25年度より県内初の高校生カフェ「サノ・ボヌール」を江北町小田宿に開店した。県内の有名洋菓子店からパテシエを講師として招き、お菓子作りを基礎から学び、全てが生徒の手作りの経営を行い、町おこしに貢献している。

